

体育授業における状況把握の教授方法

ーゴール型（バスケットボール）に焦点を当ててー

工藤 奈央（長崎大学）

1. 動機, 目的, 方法

体育授業におけるボールゲームでは、生徒がダンゴ状態や動きが停止している状態、スペースが使えない状態になる場面が多く観察される。これらの状態を解消するために、教師は生徒に状況判断について指導するが、練習時には問題が解消されてもゲーム中には解消されていないことが多い。すなわち、状況判断の指導だけでは問題は改善されていないということである。この状態を解消するために、状況判断の前に状況把握について教授する必要がある。以上から、本研究では体育授業における状況把握を教授する必要性を明らかにし、ゴール型（バスケットボール）に焦点を当てて状況把握の教授方法を示す。研究方法はバスケットボールの状況把握の分析及び具体例の検討、文献考察である。

2. バスケットボールにおける状況把握の基礎的研究

本研究における状況把握は、運動主体・他者・ボール・ゴールの位置や得点、ルール、時間等の外的要素を認識し、それらと運動主体との関係を理解することと捉える。状況を判断できない生徒は、状況を判断するために何を把握したら良いか分かっていない。すなわち、教師は状況把握を教授する必要がある。バスケットボール熟練者と未熟練者では、状況判断のために把握している要素が異なる。未熟練者はどのような要素を把握して判断したら良いかについて理解し、その要素を増やしていく必要がある。

3. バスケットボール未熟練者の動きについて

バスケットボールは、運動主体・他者・ボール・ゴール等の多くの要素があり、それらは流動的に変化していく。1つの判断をするために把握しなければならない要素が多いため、未熟練者は十分な要素を把握しきれない。したがって、ある状況に応じてこれらの要素を選択しながら状況を把握できるよう

になれば状況判断につながり、問題となっている状態が解消されるだろう。そのためにも状況把握の教授という視点が重要である。

4. 状況判断の再構造化

状況把握の教授という視点から捉えた状況判断を図1のように構造化する。

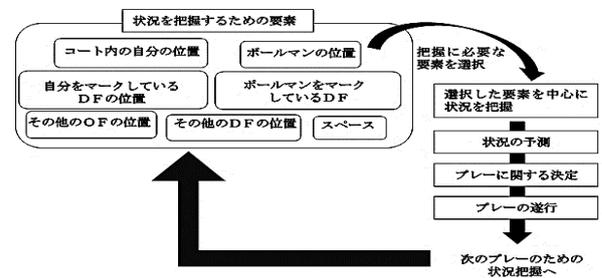


図1. OF時の状況判断の構造

状況把握は選択した要素が同じでも対象が異なると把握内容は変化する。この際の対象は運動主体・他者・ゴール・ボール・コート全体である。

5. 状況判断の構造に基づく状況把握の教授方法

状況把握を教授するためには図1を基に、状況を把握するために必要な要素に注目する必要がある。7つの要素の中から教師が1時間に1つずつ要素をピックアップし、その要素を中心に状況を把握していくような授業を構成する。この際、教師はピックアップした要素と対象に基づき、生徒がどこを見たら良いか分かりやすいような声掛けを行う必要がある。7つの要素を全て教授することで、生徒は状況判断をするために何を把握したら良いか理解でき、ダンゴ状態や動きが停止している状態、スペースが使えていない状態を解消することができるだろう。

6. 主要参考文献

中川昭（1984）ボールゲームにおける状況判断研究のための基本的概念の検討。体育学研究, 28(4) : 288-297.